### dbload

入力として受け取ったクエリ結果をSQLクエリ文に変換し、外部SQLサーバーに投入します。dboutputコマンドと同様の機能を持ちますが、rowretryオプションのデフォルト値のみ異なります。

#### 構文

dbload PROFILE [OPTIONS] table=TABLE FIELD, ...

必須パラメータ

**PROFILE**

JDBC接続プロファイル。プロファイルはWebコンソールで構成できます。

ENT-3.10.2009.0、SNR-3.1.2008.0配布バージョンより、JDBCプロファイルは接続プロファイルに統合されました。

**table=TABLE**

データを投入するテーブル名

**FIELD, ...**

データベースに投入するフィールドリスト。フィールドの区切りにはカンマ（,）を使用します。フィールド名の前に+記号を付けると、キー・カラムとして認識されます。

フィールド名は対象テーブルのカラム名と一致している必要があります。フィールド名とカラム名が一致しない場合は、dbloadコマンドの前に[rename](https://docs.logpresso.comnull)コマンドを使用して、SQLデータベースのカラム名と一致させてください。

オプションパラメータ

**batchsize=INT**

データベースバッチトランザクションに適用する処理単位。単位が大きいほど一度に多くコミットされ効率的ですが、トランザクション失敗時にロールバックされるレコードも増加します。推奨値は2000です。処理単位を指定しない場合、1件単位でコミットされるため、処理速度が遅くなる可能性があります。

**database=SCHEMA**

接続後に使用するデータベース（またはスキーマ）

**rowretry=BOOL**

行単位での再試行可否（デフォルト：t）。設定するとパフォーマンスが低下する場合がありますが、データ損失を最小限に抑えることができます。

* t: バッチトランザクション失敗時に行単位でトランザクションを実行
* f: バッチトランザクション失敗時に行単位トランザクションを実行しない

**stoponfail=BOOL**

クエリコマンドが失敗した場合にトランザクションを停止するかどうか（デフォルト：f）。

* t: クエリが失敗した場合、トランザクションを停止
* f: 失敗したトランザクションをスキップし、次のトランザクションを実行

**type=update**

実行するSQLクエリのタイプをinsertまたはupdateから指定（デフォルト：insert）。

updateに設定した場合、FIELDに少なくとも1つ以上のフィールドをキー・カラムとして指定する必要があります。SQLデータベースにキー・カラムが存在するか（SQL SELECTクエリを実行）、キー・カラムがなければINSERTコマンドを、キー・カラムがあればUPDATEコマンドを実行します。

#### 互換性

dbloadコマンドは、ENT #2309 2019-11-27\_10-43バージョン以降で利用可能です。